

4月12日「ブラフマンをマナナする」

アムリタを飲んでブラフマンを悟る（シュリー・ラーマクリシュナとカリパダの対話）

今回は、ムンダカ・ウパニシャド 2.2.11^{注1} からブラフマンについてのマナナを説明します。

ブラフマ イヴェーダム アムリタム プラスタート ブラフマ パシュチャード ブラフマ ダクシナタハ チャ ウッタレーナ
brahma ivedam amṛtam purastāt brahma paścād brahma dakṣiṇataḥ ca uttarena
アダスチャ ウールダンチャ プラスタリム フランマイヴェーダム ヴィシュヴァミダム ヴァリシュタム
adhasca ūrdhanca prasṛtam brahmaivedam viśvamidaṁ variṣṭham // (munḍaka upaniṣad 2.2.11)

言葉の意味です。

brahma：ブラフマン ivedam：このもの amṛtam：甘露、不死

purastāt：前 paścād：後ろ dakṣiṇata：右、南 ca：と uttarena：左、北 adhas：下 ūrdhan：上

prasṛtam：広げている viśvam：宇宙は idam：これ variṣṭha：最高

brahmaivedam viśvamidaṁ variṣṭham：この宇宙(ブラフマン)は最高

訳：不死のブラフマンは、前から後ろ、右と左、下と上にも遍在しています。

この宇宙は至高のブラフマンです。

もう少し詳しく説明しますと、「このブラフマンは、アムリタ（甘露・不死）」。「甘露のイメージはとても甘い飲み物です。アムリタ（amṛta）が最高の飲み物です。それを飲むと、とても喜び楽しめます。それと比べて、お茶、コーヒー、酒は、アムリタにはかないません。

ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュの友人でカリパダ・ゴーシュという人がいました。彼はアルコール依存症になるほどお酒が大好きで、給料のほとんどを使っていました。それによって、奥さんも大変困っていました。ある時ギリシュは、カリパダをシュリー・ラーマクリシュナの所に連れて行きました。シュリー・ラーマクリシュナは、カリパダに「何の要件でここに来ましたか？」と尋ねました。カリパダ・ゴーシュは、「私はお酒が大好きです。私はお酒が欲しいのです。」と言いました。シュリー・ラーマクリシュナは神聖な人ですから、普通の人は、「私は神様を悟りたい。純粋になりたい。心の幸せが欲しい。」などの目的を言いますが、カリパダは「強力な西洋のお酒が欲しい」と率直に言いました。

シュリー・ラーマクリシュナは、「そうですか」と答えました。するとカリパダは、「あなたはお酒を持っていますか」と尋ねました。もちろんシュリー・ラーマクリシュナは、西洋のお酒は持っていませんが、「はい。ありますよ」と答えました。カリパダは、「それを飲ませて欲しい」と言いました。「そのお酒を飲んで、心の中の怒り、家族のこと、仕事で大変なことを全部忘れたいです。」と言いました。

シュリー・ラーマクリシュナは、「私の持っているお酒は西洋のものではありません。この国で作ったお酒です。」と言いました。カリパダはそれでもかまいませんから、それが飲みたいと言いました。シュリー・ラーマクリシュナは、「そのお酒はとても強いので、あなたが飲むと消化できないでしょう」と言いました。カリパダは「そのお酒を飲んで私も大丈夫です」と答えました。

その時、シュリー・ラーマクリシュナは、カリパダの体に触れました。その後…カリパダはずっと泣いていました。シュリー・ラーマクリシュナのタッチは、神様の愛のお酒だったのです。そのためカリパダは、ずっと泣いていました。その理由は2つあります。

1 つは、カリパダの心の中にあった前世からのたくさんの苦しみがなくなったので、自分の人生を振り返り、後悔して泣いていました。これは否定的な結果です。

もう1つは、神の愛であるアムリタによって、不死になり、そして至福が溢れ出ます。ですからカリパダは、至福の涙を流したのです。これは肯定的な結果です。アムリタは最高の飲み物です。アムリタを飲んでブラフマンを悟ると、結果は不死になり、至福が溢れます。それが、「brahma ivedam amṛtam」です。

ブラフマンが偏在であることの例え①

では、そのブラフマンはどこにいるのでしょうか。

「前後左右、東西南北」ありとあらゆるところに、ブラフマンは存在します。ですから、これもブラフマン、あれもブラフマン、ここもブラフマンとイメージします。皆さんの目の前にあるパソコンも、後ろにある窓も、カーテン、屋根、床、それらすべてはブラフマンです。

そのように、目の前のもの1つ1つを「これもブラフマン」と認識して肯定していきます。そうすることで、ブラフマンが遍在というイメージができます。いつもブラフマンのことを考える方法の1つが、このやり方です。仕事だけではなく、周りのものすべてがブラフマンです。そのように考えることで、とても精妙なものでも印象が深くなります。これが神聖化です。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（以下スワミージー）が言っていたように、「私はアートマン、私はアートマン、すべてはブラフマン、すべてはブラフマン」というだけでは、印象は深くなりません。

ウパニシャドの中にあるように、1つ1つのものを取り上げて、それもブラフマン、また、それもブラフマン、とすることで印象が深くなります。

それが「プラスタート ブラフマン パシュチャード ブラフマン ダクシナタハ チャ ウッタレーナ アダスチャ ウールダンチャ プラスタリム purastāt brahma paścād brahma dakṣiṇataḥ ca uttarena adhasca ūrdhanca prasṛtam」です。すべてがブラフマンですから、この宇宙は最高のものです。

ブラフマイヴェーダム ヴィシュヴァミダム ヴァリシュタム
「brahmaivedam viśvamīdam variṣṭham：この宇宙(ブラフマン)は最高」

ブラフマンが偏在であることの例え②

次にシュヴェーターシュヴァタラ・ウパニシャド4.3^{注2)}の説明です。

トゥヴァム ストリー トゥヴァム プマーナシ トゥヴァム クマーラ ウタ ヴァ クマリー トゥヴァム ジールノ ダンデーナ ヴァンチャシ
tvam strī tvam pumānāsi tvam kumāra uta vā kumārī tvam jīrṇo daṇḍena vañcasi

トゥヴァム ジャートー バヴァシ ヴィシュヴァトー ムッカハ
tvam jāto bhavasi viśvato mukhaḥ (śvetāśvatara upaniṣad 4.3)

言葉の意味。

tvam：あなたは strī：女性 pumānāsi：男性 kumāra：若い男性 uta：反対に vā：または kumārī：若い女性 jīrṇo：老化して daṇḍena：杖で vañcasi：よろめく状態になる vam：放つ jāto：誕生 bhavasi：～の存在になる viśvato：全てにおいて、至る所で mukhaḥ：顔、口、前面

訳：おおブラフマン、あなたは女性です。あなたは男性です。あなたは若い男性です。

あなたは若い女性です。

あなたは杖をついてよろめくお年寄りです。あなたは生まれたあと、色々な形になりました。

また先ほどと同じように、1つ1つ学んでいきます。今度は生き物について話しています。

kumara と kumārī は結婚前の若い人をいっています。クマールは若い男性の名前です。クマリーは若い女性の名前です。次は、足がふらついて杖を使っているお年寄りのイメージです。

まとめると、「女性、男性がブラフマンです。若い男性も、若い女性もブラフマン、年をとった人もブラフマン、この宇宙はすべてブラフマンです。あなたはその宇宙で現れています。」という節です。

ここで大切なのは、好きな人にブラフマンを見ることは難しくないですが、嫌いな人、嫌いなことにブラフマンを見ることができないと、本当の印象が出ません。

ブラフマンが偏在であることのイメージ

スワミーの生涯の出来事で、スワミーが亡くなる前のこと。スワミーが住んでいる建物の前に1本のマンゴーの木がありました。ベルル・マト（ラマクリシュナ・ミッション及びラマクリシュナ僧団の本部）ができる前からあった古いマンゴーの木です。

スワミーは、そのマンゴーの木の下に折り畳み椅子を置いて、そこに座り、信者や来客に話をするのが大好きでした。ある時スワミーがそこに座って、信者やお坊さんと話をしていました。スワミー・プレマナンダジー（シュリー・ラマクリシュナの直弟子の1人）は、当時の2階のシュラインから1階に下りてガンガーに行くための途中の階段にいました。その時突然、スワミーが高い霊的ムードに入り、「あなたはブラフマン、あなたはブラフマン」と言いながら、皆を指差しました。その結果、皆に本当のブラフマンのイメージがでて、その場で動かなくなりました。スワミー・プレマナンダジーもそれを聞いて、そのまま身動きができなくなりました。

スワミーは、「あなたはブラフマン」という言葉だけではなく、偉大な霊的な力で、皆がブラフマンを理解して、「私は体ではない、私はブラフマン」と感じることができ、本当のブラフマンの状態になりました。その場の皆の意識が、肉体から魂意識に上がりました。

インドの有名な詩人でカーリーダーサ（Kālidāsa）のクマール・サンバヴァというドラマがあります。そのドラマの中で、カイルーサでシヴァが瞑想していました。その時、ナンディーがシヴァのお世話をしていました。ナンディーは、皆さんに言いました。「今、マハーデーヴァが瞑想していますから、静かにしてください」と。すると、風は流れなくなりました。木の葉も動きません。動物も動きません。すべての状態が「チットラ アルピタン イヴァ アヴァタスティ（絵に描かれたように動かない）」の状態になりました。

絵の中では、人も動物も描かれていますが、誰も動いていません。その絵のようにシヴァが瞑想すると、自然すべてが絵のように動かなくなりました。すべての生き物、自然の全部が「チットラ アルピタン イヴァ アヴァタスティ」の状態になります。

スワミーがその後、4~5分たってから、「皆さん自分の場所に戻ってください」と言いました。すると皆さん動きだし、スワミー・プレマナンダジーもガンガーに降りていきました。

普通の誰かが「あなたはブラフマン、あなたはブラフマン」と言っても、影響はありませんが、スワミーが言うと、皆さんがそのようになります。

スワミーの例えを使ったのは、私たちは、少なくともイメージをすることが大事だからです。今のテーマはマナナです。そのようなイメージをすると、ブラフマンのイメージを助けてくれます。

最初は、これがブラフマン、これがブラフマン、と、1つ1つ実践してください。何回も何回もイメージしてください。いつも私たちは「私は体」、朝から晩まで「私は体、体、体…」になっています。それを反対にして、「私はブラフマン、仕事はブラフマン、食事もブラフマン、車もブラフマン、建物もブラフマン、この

人もブラフマン、あの人もブラフマン、前の人もブラフマン、後ろもブラフマン、下もブラフマン、上もブラフマン、左もブラフマン、右もブラフマン、東もブラフマン、西もブラフマン、南もブラフマン、北もブラフマン…」と、これが神聖化です。

このように実践すると、スワームージーが言っているように、あなたはブラフマンになります。これが実践のヒントです。最初は、「ネーティ、ネーティ」という否定的な方法を話しました。今は、「これもブラフマン、これもブラフマン」という肯定的な方法を話しました。この2つの方法でブラフマンを悟ることができます。

サヴィカルパ・サマーディとニルヴィカルパ・サマーディ

それでは、この2つの方法の悟りは、同じ悟った状態でしょうか、それとも違った状態でしょうか。

「これもブラフマン、これもブラフマン」という肯定的な方法の悟りは、サヴィカルパ・サマーディになります。反対に、「ネーティ、ネーティ」という否定的な方法は、ニルヴィカルパ・サマーディになります。サヴィカルパ・サマーディは、ブラフマンに1番近いですが、まだ1つになっていません。「私」と「ブラフマン」は違います。サマーディの状態ですが、違う意識が続いています。

シュリー・ラーマクリシュナの話です。ランプの中に火が灯っています。ランプの外側にガラスのカバーがあると、火は見ることはできますが、触ることはできません。これが、サヴィカルパ・サマーディの状態です。ニルヴィカルパ・サマーディはガラスが取り除かれ、ブラフマンと1つになります。

悟る方法として、アフメーション（affirmation・肯定）とネゲーション（negation・否定）ですが、ネゲーションはとても難しいですから、普通の求道者のためにアフメーションの方法「これもブラフマン、これもブラフマン…」が実践しやすいです。私たちは、体意識がとても強いからです、「これはブラフマンではない。これはブラフマンではない…」は、とても難しいです。

ウパニシャドの中にも2つの方法がありますが、普通の求道者は、アフメーションによって、サヴィカルパ・サマーディを経験した後、神の恩寵でニルヴィカルパ・サマーディに行く方が大変ではありません。

仏陀とキサーゴータミー

ここからは、また別のテーマのマナナです。

ウパニシャドの中や、最高の霊性の師など、イエス、仏陀、シュリー・ラーマクリシュナなどは、たくさんの例え話や物語を使っています。

お釈迦様の有名な例え話があります。

キサーゴータミーという母親がいました。ようやくよちよち歩きができるようになったばかりの一人息子を失い、悲しみに打ちひしがれます。彼女は、息子を生き返らせ、治す薬を求めて釈尊のもとを訪ねます。

釈尊は、1人も死人が出たことのない家から白いケシの実をもらってくるように、と言います。町中の家々を訪ねたキサーゴータミーは、「ああ、なんと恐ろしいこと。私は今まで、自分の子どもだけが死んだのだと思っていたのだわ。でもどうでしょう。町中を歩いてみると、死者のほうが生きている人よりずっと多い。」と、死はどここの家にもあることに気づかされました。死が、生きる者の逃れられない定めであることを教えられたキサーゴータミーは、出家して生死輪廻の苦しみの世界を超えた、仏の悟りの世界を求めていきました。

また、「ラーマクリシュナの福音^{注3)}」にもたくさんの例え話があります。「ラーマクリシュナの福音」は例え話のデパートです。その他、ウパニシャドの中にも例えが出てきますが、どうしてでしょう。

それは、ブラフマンやアートマンを悟ったり、トゥリーヤの状態になるのは、とても精妙で、ほとんどの人は経験がありません。その状態を見たことも聞いたこともありません。そのため、その印象を作るために、例を使うのです。

ただ「ブラフマンは遍在です」だけではわかりませんから、上にも下にも、左右、南北などイメージを作るために、例えをたくさん使っています。

4月26日「ブラフマンから現れ、そしてまたブラフマンに戻ります」

例え話で学ぶ理由と目的

シュリー・ラーマクリシュナやお釈迦様は、たくさん例を使いましたが、その目的は3つありました。

伝えたい真理は、とても精妙ですから、例を使うことで、真理を理解するのを助けてくれます。そして、私たちにはその経験がありませんから、物語は覚えやすく、物語を使うことで、その教えを何度も思い出して、印象を深くさせてくれ、真理を理解しやすくなります。そして、その物語の教えを実践することです。そこまでしないと完璧にはなりません。

その為に「ラーマクリシュナの福音」が本になりました。この中には物語がたくさんあります。しかし、「ラーマクリシュナの福音」は物語の本ではありません。

私たちは、バガヴァッド・ギーター講義の時やウパニシャド講義の時などに、「ラーマクリシュナの福音」や「ラーマクリシュナの生涯^{注4)}」から例を引用しています。それはどうしてでしょうか？

私たちは、今、ヴェーダーンタを勉強しています。シュリー・ラーマクリシュナの生き方が、ヴェーダーンタそのものだからです。

また、シュリー・ラーマクリシュナの生涯、スワームージーの生涯が、ヴェーダーンタのデモンストレーションだから、何度もシュリー・ラーマクリシュナやスワームージーの例をお話します。

シュリー・ラーマクリシュナの生き方を学ぶ大切さ

ウパニシャドとは、ヴェーダーンタのことです。シュリー・ラーマクリシュナは、現代において、多くのヴェーダーンタの教えを、自分で実践して悟りました。他にも、ラマナ・マハリシなどの聖者もいますが、シュリー・ラーマクリシュナの特徴は、「調和」です。「ラーマクリシュナの福音」には、バクティもヴェーダーンタもタントラもキリスト教もイスラム教の実践もあります。それがとても調和的です。そして、シュリー・ラーマクリシュナの生涯の大きな特徴は、ヴェーダーンタです。それだけでなく、シュリー・ラーマクリシュナは、ヴェーダーンタの真理が本当に正しいと実証しました。自分でヴェーダーンタの教えを実践して確信しました。「すべてがブラフマン、お皿もブラフマン、グラスもブラフマン…」それに対して、疑う信者もいました。その人に、シュリー・ラーマクリシュナは、その経験を与えました。

スワームージーの有名な話で、ヴェーダーンタをからかった話があります。

「友人の前でシュリー・ラーマクリシュナの一元論をからかったことがあった。「この水差しが神で、この茶碗も神で、我々も神である、と言うほど馬鹿げたことがあるかね？」そして二人は大笑いした。

ちょうどその時、師が姿を現された。笑いの原因を知ると、優しくナレーンドラに触れて、深いサマーデーに入られた。この一触れが魔法の効果を生じさせ、ナレーンドラは新たな意識の領域に入った。宇宙全体に神の意識が浸透しているのを見た彼は、茫然として家路についた。食事中、食べ物にも自分自身にも、あらゆるものにブラフマンの存在を感じた。通りを歩いている時も、馬車、馬、人混み、そして自分自身があたかも同一の実質からなっているように見えた。数日後ヴィジョンは幾分弱まったが、それでもなおこの世を夢としか思えなかった。カルカッタの公園を散策していた時、鉄柵に何度も頭を打ちつけて、柵が現実な

のか、あるいは単なる心が作り出した幻覚なのか知ろうとした。こうして彼が垣間見た不二一元の世界は、やがてカーシープル・ガーデンにおいて完全な実現を見ることになるのだった。」

(「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯 弟子の訓練(P56 後ろから1行目〜)」より)

スワミーはその後、本当にヴェーダーンタの真理、教えが正しいと理解しました。その後はヴェーダーンタについての疑いが、まったくなくなったと言っています。

これが、ヴェーダーンタについて、ウパニシャドの話について、「シュリー・ラーマクリシュナの福音」と「ラーマクリシュナの生涯」がなぜ大切なのか、の理由です。

インドの有名な詩人、カーリーダーサは、自分の詩の中に多くの例を使いました。ウパマはとても有名です。その他、タゴールも有名な詩人で、物語にも多くの例えを使っていました。しかし、シュリー・ラーマクリシュナの本が、その中でも1番例えを上手く使っている、という専門家の意見があります。

サーンキヤ哲学のプルシャ、プラクリティ、ヴェーダーンタ、ブラフマン、ジーヴァ、アートマンなど、とても難解なアイディアを、普通の哲学者は、分厚い本を書いて説明していますが、それがまた難しく、読んで分かりにくく、もっと混乱します。

シュリー・ラーマクリシュナの特徴は、ヴェーダーンタのとても分かりにくくて、とても精妙な哲学を、とても分かりやすく例えや物語を使って説明したことです。

「福音」の中の例え話の数々

「ラーマクリシュナの福音」の中に、居住者は毎日の生活をどのように送ったら良いのか、の例えがいくつかあります。1つは、蓮の葉についた水滴の話。次は、川に浮いている船の話。水鳥が水浴びをしても羽が濡れない話。それらは、無執着についての例えを使った話です。船の中に水が入っていると、船は沈んでしまいますが、船の中に水がないと、安全に目的地に行けます。それと同じで、自分の中に家族が入ることで、問題が沢山起こってきます。反対に、自分と家族を別々にすることで、問題は起こりません。

鳥は水浴びをしても、その場から離れると水も落ちます。水鳥の羽は濡れません。その内容を深くマナナしてください。マナナをして、そのように実践すると無執着になります。

また、ヴェーダーンタの識別の方法で、「ネーティ、ネーティ」(これではない、これではない)という方法があります。その例えで、暗い部屋で主人(バブー)を探す話があります。暗い部屋に入っていろいろなものを触り、「これではない、これではない」とバブーを探し回ります。そして最後にバブーに触ることができて「イーティ」(これです)という話は、ヴェーダーンタの識別の物語です。

普通の物語でヴェーダーンタの説明をしようとする、7~8ページに渡り説明が続きますが、シュリー・ラーマクリシュナは、2から3つの文章で終わります。これも特徴の1つです。

また、ベンガルの神様を信じてない人や学者、普通の人々が「ラーマクリシュナの福音」を読んでいるのはどうしてでしょう。神様は好きではないのに、どうして「福音」は好きなのでしょう。

それは面白い物語が沢山あるからです。それだけではなく、少ない文章で簡単に説明しているのが特徴です。例えば、

「少し、ヴェーダーンタの論理をおききなさい。一人の魔法使いが、王様のところにきて魔法を見せた。魔法使いがほんの少し離れて行ったと思うと、王様は一人の騎手がウマにまたがってこちらにやってくるのを見た。騎手はきらびやかに盛装し、さまざまな武器を手にしていて、王様と観衆は、目の前の現象の中の何が本物であるか、推理をしはじめた。明らかに、ウマは本物ではなかったし、衣裳も武器もそうでは

なかった。ついに彼らは、少しの疑いの余地もなく、乗り手だけがそこにいるのを発見した。この意味は、ブラフマンだけが実在であってこの世界は非実在であるということである。もし分析するなら、何一つ残りはしないのだ」

(第四章 シャーンプクルでのシュリー・ラーマクリシュナ (改訂版 P927 上段9行目～)

このように、シュリー・ラーマクリシュナは、「福音」の中で物語を使ってヴェーダーンタを説明しています。また、各ウパニシャドもいろいろと物語を使って教えています。ブラフマン、アートマン、サット、チット、アーナンダ、ブラフマンから宇宙がでて、ブラフマンに戻るという、たくさんの哲学のアイディアを分かりやすく、印象が深くなるように、最後は実践のために、面白い例があちらこちらにいっぱいあります。その1つの例がムンダカ・ウパニシャド 1.1.7^{注5)} です。

ヤター ウールナービヒ スリジャーテー グリンナテー チャ ヤター フリディッヴィヤーム オーシャダヤハ サムバヴァンティ
yathā ūrṇanābhiḥ sṛjate grhnate ca yathā pṛthivyām ośadhayaḥ sambhavanti /
ヤター シャタハ プルシャハ ケーシャローマーニ タター アクシャラート サムバヴァティー ヴィシュヴァム
yathā śataḥ puruṣāḥ keśalomāni tathā akṣarāt sambhavatiḥa viśvam // (muṇḍaka upaniṣad 1.1.7)

たとえばクモが自分の中から糸を出して巣をつくり、それをまた自分の中に収めるように。
たとえば大地から植物が出るように。たとえば人の体から髪や体毛が出るように。
まさに不滅のブラフマンから宇宙が出ます。

yathā : 例えば～の様に ūrṇa : クモは nābhiḥ : 臍 sṛjate : 生み出す grhnāti : 掴む pṛthivyā : 大地
ośadhaya : 植物は sambhavanti : ~から起こる puruṣa : 人間から keśa : 頭髪 loman : 体毛
tathā : まさに akṣarāt : 不滅のブラフマンから sambhavati : 出る ih : ~しようとする viśva : 宇宙は

その前後関係から、「ブラフマンからこの宇宙が現れました。そしてまたブラフマンに戻ります。ブラフマン以外何もありません。」—これがウパニシャド、ヴェーダーンタの教えです。

すべてがブラフマン。私たちが認識した宇宙すべてがブラフマンです。それがブラフマンから出てブラフマンに戻ります。普通は、創造、維持、破壊によって宇宙が現れて消えますが、ヴェーダーンタの教えでは、創造はありません。破壊もありません。では何があるのか？

「現れます。そして1つになります。」、その考えです。マニフェスト (manifests・現れる)。マージ (merges・1つになる)。

「この宇宙はブラフマンから現れます。そして、その宇宙はブラフマンと1つになります。」

ヒンドゥ教のアイディアと例

科学者とヴェーダーンタの考えが違います。科学者は、「この宇宙は、ビッグバンによって始まりました」と言います。1つの線のように始まりがあります。創造のセオリーがラインの考えです。その線が長く続きます。その時間から、そのポイントから、宇宙が始まりました。そしてある時終わりが来ます。その時、地獄に行くか天国に行くかが決まります。

しかし、ヒンドゥの考えは、ライン (line) ではなくサイクル (cycle) です。円はどこから始まり、どこで終わるか答えることができません。始まり終わりがありません。ずっと続きます。ある時ブラフマンから現れて、ある時ブラフマンに戻ります。これが大きな特徴です。

ヒンドゥ教のアイディアはサイクルです。車輪と同じです。そのために例えを使わないと分からないので、蜘蛛の巣の例を使いました。しかし、鳥が巣を作るのと、蜘蛛が巣を作るのは違います。何が違うでしょう。鳥は、巣の材料を外のものから作ります。しかし蜘蛛は、自分の臍から糸を出して巣を作ります。

ブラフマンも同じです。ブラフマンも自分からこの宇宙を創造します。そして、蜘蛛と同じように、自分でブラフマンの中に引き戻します。昔の聖者は、観察して、蜘蛛が巣を作るのとブラフマンが宇宙を作るのがとても似ているので、その例えを使いました。

また別の例があります。植物は土から出ます。そして土に戻ります。同じ場所から出て、同じ場所に戻ります。もう1つの例は、髪の毛は人の中から出ています。戻りませんが、ブラフマンから現れている、というポイントです。それぞれのイメージをすることで、私たちは今理解できます。

すべての例えを自然から使っています。そして、私たちにもその経験があります。真理の経験はありませんが、例えの経験は誰にでもあります。そのものの説明のために、見たことのある、経験のあるものを例えに使っています。

次はムンダカウパニシャッド3.2.8^{注6)}です。

ヤター ナディヤハ シヤンダマーナハ サムドレ スタン ガッチャンティ ナーマルーペ ヴィハーヤ
Yathā nadyaḥ syandamānāḥ samudre-'staṁ gacchanti nāmarūpe vihāya

タター ヴィツァンナーマルーパデヴィムクタハ パラートパラム フルシャムバイティ ティヴィヤム
Tathā vidvānnāmarūpādvimuktaḥ parātparam puruṣamupaiti divyam / (muṇḍaka upaniṣad 3.2.8)

川が海に流れ入って、名称と形態を失うように、まさにそのように、賢者は名称と形態から解放されて至高の存在、自ら光輝くもの、無限なるものに到達する。

前後関係で言うと、「ブラフマンからすべてのものが現れました」。最初はニルグナ・ブラフマン(形もない、性質もない)ですが、現れた後の状態は、名前、形、性質、カルマ、カルマの結果、サムスカーラ、国、宗教、仕事、好きなもの、嫌いなもの…たくさんありますが、ウパニシャッドでは、ナーマルパ(名前と形)この2つの言葉を使って、すべてを表現しています。この2つの言葉で、宇宙のありとあらゆる種類のものが、全部入っています。宇宙のすべてのものはブラフマンから出ました。そして、ブラフマンに戻ります。ここでの例えを使っている部分は、ブラフマンに戻った後の例えです。

その宇宙がブラフマンに戻ると、名前と形はすべてなくなります。戻った後ブラフマンと1つになります。サッチダーナダです。純粋な意識になります。すべての違いが無くなります。

宇宙の形で現れる時、意識はありますが、形はバラバラです。そしてブラフマンに戻ると、すべての名前と形、性質はなくなります。宇宙の形で現れた時は、全部マーヤーとトリグナです。ブラフマンに戻ると、トリグナはすべて無くなり、サッチダーナダになって1つになります。それを理解できるように、この例えを使っています。

yathā : 例えば～の様に nadyaḥ ; 川 syandamānāḥ ; 流れています samudre ; 海

'staṁ gacchanti ; いなくなります nāmarūpe ; 名前と形 vihāya :除外する

(※以降は次回翻訳、解説します。)

海の中に川が入ると個別の川の名前がいなくなります。インドにもたくさんの川があります。ガンガー、ヤムナーナルマダー、ブラマプトラ、それぞれ、場所も川の色も名前も違いますが、海に入るとそれが外れます。

- 注1) 協会 HP「各種勉強会 講話のまとめ」→「ウパニシャド」→
「【①日本語資料（カタカナ読みと単語の意味）】「ウパニシャドからの引用句」内の⑩（P4）
をご参照ください。
- 注2) 同上「ウパニシャドからの引用句」内の⑩（P7）をご参照ください。
- 注3)・注4) 共に協会発行の書籍。
- 注5) 同・注1)「ウパニシャドからの引用句」内の⑨（P3）をご参照ください。
- 注6) このサマリーの巻末「ウイークリーウパニシャドクラス 第 68 回～（2023年4月26日）資料」の
②をご参照ください。

ウィークリーウパニシャドクラス 第68回～ (2023年4月26日) 資料

① 「quotations from upanisads ウパニシャッドからの引用句」 3 ページより

p.87 ll.9-10. ⑨ *yathā ūrṇanābhiḥ sṛjate grhnate ca*

ヤター ウールナナービヒ スリジャター グリンナター チャ

yathā pṛthivyām ośadhayaḥ sambhavanti /

ヤター プリティツヴィヤーム オーシャダヤハ サムバヴァンティ /

yathā śataḥ puruṣāḥ keśalomāni

ヤター シャタハ プルシャーハ ケーシャローマーニ

tathā akṣarāt sambhavatīha viśvam //

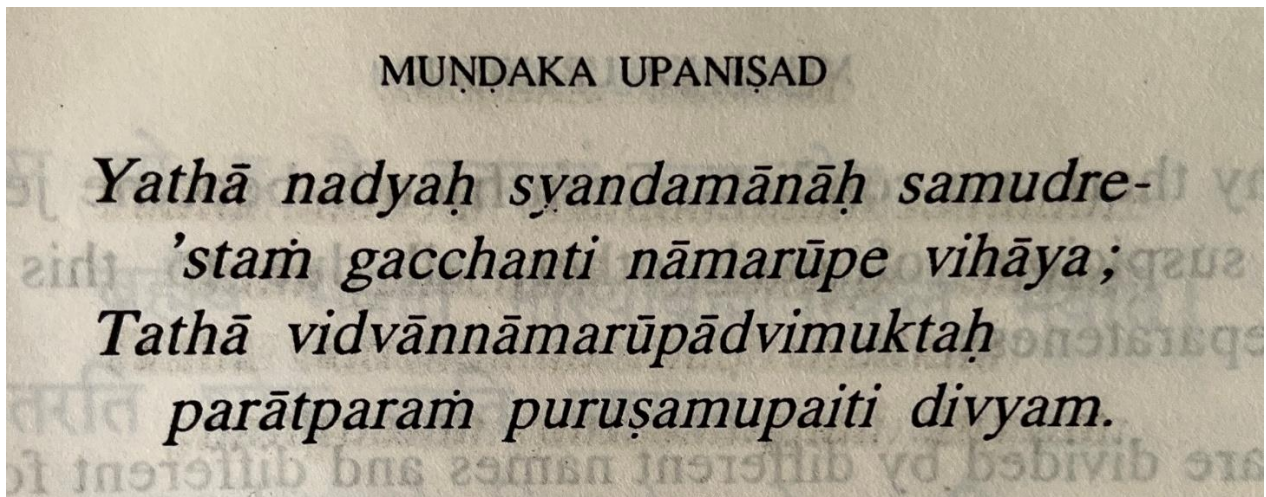
タター アクシャラート サムバヴァティーハ ヴィシュヴァム //

[muṇḍaka upaniṣad 1.1.7]

訳：たとえばクモが自分の中から糸を出して巣をつくり、それをまた自分の中に収めるように。たとえば大地から植物が出るように。たとえば人の体から髪や体毛が出るように。まさに不滅のブラフマンから宇宙が出ます。

(*yathā* : 例えば～の様に、*ūrṇa* : クモは、*nābhiḥ* : 臍、*sṛjate* : 生み出す、*grhnāti* : 掴む。*yathā* : 例えば～の様に、*pṛthivyā* : 大地、*ośadhaya* : 植物は、*sambhavanti* : から起こる/*yathā* : 例えば～の様に、*puruṣa* : 人間から、*keśa* : 頭髪、*loman* : 体毛。*tathā* : まさに、*akṣarāt* : 不滅のブラフマンから、*sambhavati* : 出る、*ih* : ～しようとする、*viśva* : 宇宙は)

②



③

*Dvā suparṇā sayujā sakhāyā
samānam vṛkṣam pariśasvajāte;
Tayoranyaḥ pippalam svādvattya-
naśnannanyo abhicākaśīti.*

④ 「水と塩の例」(当日解説します)

⑤ 「小さい種の例」(当日解説します)

⑥

6.1.5-6 CHĀNDOGYA UPANIṢAD 485
*Yathā somyaikena lohamāṇinā sarvaṁ lohamayaṁ
vijñātaṁ syādvācārambhaṇaṁ vikāro nāmadheyaṁ
lohamityeva satyam.*

⑦

*Ātmānam rathinaṁ viddhi śarīraṁ rathameva tu;
Buddhiṁ tu sārathim viddhi manaḥ pragrahameva ca.*

⑧

II.ii.4-5 MUNDAKA UPANIṢAD 83
*Pranavo dhanuḥ śaro hyātmā brahma tallakṣyamucyate;
Apramattena veddhavyaṁ śaravattanmayo bhavet.*